

あいさつ

国立スポーツ科学センター
センター長 笠原 一也

第5回JISSスポーツ科学会議の開催に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

今回のスポーツ科学会議は「世界で勝つためのスポーツ科学～北京からロンドンへ～」をテーマに開催することとなりました。

本年開催された北京オリンピックでは、日本選手団は25個のメダルを獲得し、随所に素晴らしい活躍の姿を見せてくれましたが、アテネオリンピックの結果から見るとやはり厳しかったと言わざるを得ません。

本年1月にJISSに隣接して、ナショナルトレーニングセンターが完成し、我が国の競技スポーツの環境が整い、今後は両施設が連携を深めることによって医・科学に基づく効果的なトレーニングが期待されるところであります。

幸い北京オリンピックでの25個のメダルすべてにJISSは何らかの形で貢献することが出来たと思っておりますし、アテネオリンピックに続いて連覇する選手が多かったことや女子選手の活躍が目立ったことは、スポーツ医・科学の研究支援、そして練習環境が整ったことの成果ではないかと考えています。

しかし、2012年のロンドンオリンピックに向けては次代を担う選手の養成確保が喫緊の課題ではないかと思えます。

その解決のためにはスポーツ医・科学によるサポートが更に重要になってくることは申すまでもありません。またロンドンの前には2010年のバンクーバー冬季オリンピックも控えています。トリノオリンピックでの課題を踏まえ、スポーツ医・科学の支援のもとに成果があがることを期待したいと思います。

JISSとして、国際競技力向上のために、どのように支援をし、どのような成果を挙げることが出来るのか、またどのような課題があるのかを明らかにしていくことが重要だと考えます。

今回のテーマは、誠に時宜を得たものだと思いますし、また、海外からはオーストラリアとドイツから研究者を招き科学的な取り組みについて講演を頂くこととなっています。

第5回JISSスポーツ科学会議が多くスポーツ関係者にスポーツ科学の重要性が認識され、更なる競技力向上のためのスポーツ科学の研究の成果があがることを期待するとともに、有意義に開催されますよう祈念申し上げ挨拶といたします。